

麻酔科

(1) 一般目標 (GIO)

周術期を含めた麻酔管理を行うための、基本的な知識、技術、観察力、危機対応を修得する。
これら経験を積むことで麻酔科学が手術室での外科系患者に対する役割と位置づけを理解する。

(2) 行動目標 (SBOs)

- ① 麻酔に関する十分なインフォームドコンセント、分かりやすい説明ができる。
- ② 麻酔上級医、各科医師と適切なコミュニケーションがとれる。
- ③ 麻酔医療安全対策に関する心構えと反省ができる。
- ④ 患者の術前全身状態の把握・問題点の指摘が出来る。
- ⑤ カンファレンスにおいて症例提示・麻酔計画提示などができる。
- ⑥ 基本手技（末梢静脈路確保、マスク・バッグ換気、気管挿管、人工呼吸、体温管理、輸液、輸血）が適切に実施できる。
- ⑦ 各種麻酔法（全身麻酔、硬膜外・クモ膜下麻酔、バランス麻酔など）が適切に実施できる。
- ⑧ 薬剤（吸入・静脈麻酔薬、麻薬・鎮痛薬、筋弛緩薬、循環作動薬、輸液・輸血・血液製剤など）の特性を理解できる。
- ⑨ 重症症例（ICU管理症例）についても上級麻酔医の下で全身麻酔管理を経験する。
- ⑩ 手術中の安全指針を遵守し、麻酔記録の記載を確実に行う。
- ⑪ 術後回診・経過観察する。術後疼痛や合併症などの問題点を指摘できる。

(3) 方略 (LS)

LS1：On the job training (OJT)

1) 手術室

- ・ローテート開始時には、指導医・上級医と面談し、自己紹介、研修目標の設定を行なう。
ローテート終了時には指導医・上級医からfeed backを受ける。
- ・麻酔担当医として手術(麻酔)患者を受け持ち、専門医、上級医の指導のもと、麻酔導入と術中の維持、覚醒を実施する。
- ・術中常に安全確認に注意を払い、必要に応じ薬剤量の追加や調節、人工呼吸の調節などを上級医と相談の上行う。
- ・麻酔記録に必要事項をもれなく記載する。
- ・「安全な麻酔のためのモニター指針」を理解し遵守する。
- ・以下の疾患の麻酔を上級医の指導下を実施する。
腹部外科手術の麻酔・脳神経外科手術の麻酔・整形外科手術の麻酔・泌尿器外科手術の麻酔・産婦人科手術の麻酔・眼科手術の麻酔・耳鼻咽喉科手術の麻酔・皮膚科手術の麻酔・甲状腺・乳房外科手術の麻酔・外傷症例の麻酔・小児の麻酔

2) 病棟回診

- ・担当医として手術麻酔患者を受け持ち、指導医、上級医の指導のもと、問診、身体診察、検査データの把握を行ない、麻酔計画立案に参加する。
- ・術後回診を行い、患者の術後状態の観察を行う。疼痛、合併症などの問題があれば対処法を考え、指導医・上級医に報告した上で対応する。

LS2：カンファレンス

- ・麻酔科カンファレンス（8時30分～）：担当患者の症例を提示し麻酔計画を発表する。

(4) 評価 (EV)

- 1) 研修医は、ローテート終了時に自身の研修達成度を確認しながら、自己評価を行う。
- 2) 指導医あるいは上級医は、全ての行動目標に対して、観察記録あるいは口頭試験などによる形成的評価を適宜行う。目標によっては必要に応じて看護師など医師以外の評価者も観察記録による形成的評価を行う。総合的な評価結果はローテート終了時にfeed backされるとともに、オンライン臨床研修評価システムにて記載される。
- 3) 指導医は提出された病歴要約により、経験すべき症候・疾病・病態に関する理解度について

て形成的評価を行う。

【週間スケジュール例】

	月	火	水	木	金
朝	麻酔カンファレンス（8時30分～）				
午前	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔
午後	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔